

農作物生育・技術情報9号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稲 中苗：ななつぼし

一部で収穫が始まりましたが、降雨により作業は止まっています。降雨や風により倒伏・なびきが見られます。品質を落とさないように作業は計画的にすすめましょう。

生育状況(9/15現在)		
項目	R2年	平年
成熟期	9月13日	9月17日
生育の遅速	+4	-

〈技術対策〉

○収穫作業について

- ・ほ場に水が停滞している場合は、速やかに排水して土壌表面を乾燥させ、水田を痛めないように急旋回は避ける。
- ・倒伏した稲は追い刈りでコンバインの速度を落とし丁寧に刈る。

○乾燥・調製について

- ・籾水分が高く外気温が高い場合、ヤケ米の発生が多くなるので、収穫後速やかに通風乾燥を行い、徐々に熱風温度を上げ、二段乾燥で玄米水分が14.5~15%になるように仕上げる。
- ・胴割れは、籾の乾燥速度や外気条件によって発生が異なるので、晴天時など空気が乾燥している日は、急激な乾燥は避け熱風温度を下げてゆっくり乾燥させる。

○収穫後の透排水性改善、稲わら処理について

- ・走行軌跡に水がたまる場合は、溝きりなど排水対策を行い、水田の乾燥に努める。
- ・秋起こしは水田の乾燥状態を確認してから行う。
- ・またワキが発生したほ場は稲わらを排出し次年度に備える。

2 主要野菜

作物名	生育状況	技術対策
トマト	<ul style="list-style-type: none"> ・4~8段で収穫中。 ・うどんこ病、灰色かび病、アザミウマ類、オンシツコナジラミ、日焼け果、軟果が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜温の低下により裂果が発生しやすくなるので、ハウス内の最低気温が12℃以下にならないように、ハウス内の保温を行う。 ・摘葉等を行い通気性を改善し、病害の発生を防止する。
ハウス軟白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・5月定植収穫中。 ・高温により葉先枯れが見られる。 ・アザミウマ類、ハモグリバエ類が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉先枯れ部分が原因となり病害が発生するので、葉先枯れが見られたら早めに防除を行う。

作物名	生育状況	技術対策
アスパラガス (ハウス立茎)	・灰色かび病、斑点病の発生が見られる。	・斑点病防除は9月中旬までを目安に行う。 ・収穫終了後もかん水を行い、自然に枯れ上げるようハウスを開放し外気にあて養分転流を促す。
きゅうり	・生育は良好。親づるの収穫が終わり、子づる・孫づるに着果している。 ・うどんこ病・べと病・アブラムシ類・アオムシの発生が見られる。	・うどんこ病、べと病の防除には、予防効果の高い薬剤と治療効果を伴う薬剤を使い分け、防除効果を高める。 ・アブラムシによる食害や幼虫を見つけた際は、早期防除を実施する。

※日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。
 今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

3 畑 作

収穫時期を迎えました。ほ場をよく観察し適期作業を心がけましよう。

○小豆

コンバイン収穫の適期は熟莢が100%に達し、子実水分が16～18%になった頃です。完熟期後、約1～2週間以内が目安となります。
 子実水分を優先して適期収穫をしましよう。

○大豆

汚粒の発生防止のため、わい化病株・雑草の抜き取りをして収穫に備えましよう。

○秋まき小麦

イネ科雑草と越冬雑草の対策は秋処理が基本です。「除草剤使用ガイド」を参考にし
 てかならず秋処理をしましよう。

4 畜 産 (9月15日現在)

○牧草 (2番草)

収穫60%

－4日

最終刈り取りは、刈り取り危険期（下行）の前に収穫しましよう。

アルファルファ 9下～10中、オーチャードグラス・ペレニアルライグラス 10中～10下

○サイレージ用とうもろこし 「糊熟期」100%、「黄熟期」30% +5日

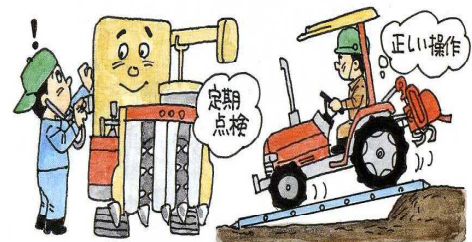
子実の状態を確認し、黄熟期まで登熟を進めましよう。

収量調査結果、平取町・日高町（46筆調査） 6,884kg/10a（平年 6,056kg/10a）

5 秋の農作業安全運動期間です！

秋の繁忙期は収穫等の農作業が増えると共に、日没が早まり、作業中の事故が発生しやすくなります。

- 休憩の取れる無理のない作業
- 農作業や機械作業に適した服装
- 点検・整備は、必ずエンジンを停止させる
- 油断せず後方確認、足下注意
- 農道の走行時は、路肩の状況を確認



事故のない収穫の秋を迎えましよう！